

第 33 回 由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会

議事概要

日時：令和 5 年 3 月 13 日（月）15:15～16:30

場所：京都府中丹西保健所 講堂

■議題

由良川下流圏域河川整備計画の進捗点検について

■議事内容

【委員】

基本的には河川改修が着々と進み、治水安全度が増しているという印象だった。気になる点として、治水安全度は通過流量のみで評価されているが、30 年程度のスパンで考えると局所的な土砂堆積が懸念されることから、土砂堆積や草木の影響による水位上昇や氾濫リスクの増大を整理していただければ分かりやすい。

【事務局】

維持管理計画で断面の 1 割程度以上が堆積しているときに土砂を撤去するという考え方を持っており、30 年間に於いて土砂堆積があれば適宜対応する。

【委員】

土砂堆積は予測の難しさだけでなく、生物の生息環境の面からどの程度の土砂撤去を行うべきかという問題があるため、河川毎にバランスを考える必要がある。

【委員】

八戸地川を例に挙げる。改修前と改修後で河川が大きく変わっている。改修後の写真の場所では生物が棲めないと思う。改修が進んでいくと、土砂が溜まり、植生が回復した時に生物が戻ってこれるようできるだけ落差工や帯工をなくし、生物が長期的に自力で河川を往来できるような施工が重要。長期的にはバランスがとれるといえるのではないかと思う。

【委員】

具体的に工事をしていくとなると護岸、水門のデザイン、形や色も重要であるが、こういう計画では薄いものになっていると感じた。現地視察で見た相長川水門、新荒河排水機場では、色、形状など景観面の配慮が足りないと感じたことから、どのような専門家を入れていいのか。

景観の中でも公共施設の景観はしっかり検討すべきであることから、景観の現状と今後についてどのように考えているのか。

【事務局】

河川整備を行う上で、デザインについて専門家に相談できていないのが実状である。委員ご指摘の視点は考えていかなければならないと思っている。

【委員】

防災減災を対応した上で、景観にも目を配ると暮らしやすい地域社会になると思う。今後の課題に留めておきたい。

【委員】

水門の青色は目立ちやすいため、残念であった。色を変えるだけなら費用は大きく変わらないため、今後の計画では是非専門家を入れて検討いただきたい。

【委員】

相長川のすぐそばに、奉安塚古墳があるので、注意願いたい。相長川に限らず、河川を切り替えるなど、大規模な河川改修を行う場合は、地元の方と相談した上で教育委員会と綿密に協議しながら事業を進めていただきたい。

【委員】

弘法川を見たが、5年、10年経ったときに維持管理が大変だと感じた。地元の協力が無いとうまく管理できないと感じたので、作って終わりではなく、地元としっかり協議していただきたい。

【委員】

ホテルの放流は原則禁止にしているので、地元から放流の話があれば自粛するよう周知して欲しい。

【委員】

福知山市街の大規模な内水被害を踏まえ、排水機場等が整備された。再び実際に大きな洪水が発生した場合、施設が確実に稼働できるよう定期的な点検や訓練をしっかりとって頂きたい。

【委員】

現状の施設では大きな洪水に対応できない。河川整備のみではなく、遊水地の整備などのプロジェクトの進展はどうか。

【事務局】

平成 26 年の降雨に対して、国・府・市の総合的な対策を行っており、福知山市の事業では、上流で池を整備して一時貯めることも合わせて内水対策を進めている状況である。

【委員】

田んぼダムの話があったかと思うが、田んぼダムは出水期間に水を抜く必要があり、農家の方が協力いただけるのかという議論があった。現在は検討中なのか。

【事務局】

農家の協力という点では、弘法川の上流において農業用ため池に水が貯められるよう整備しており、洪水が来る予測ができれば、事前に水を抜いていただくような取組をすでに実施している。

【委員】

過去には、ため池に土砂が流入した事例があり、ため池にはマイナス面もある。治山・砂防と連携することが非常に重要である。

【委員】

総合評価として、事業の必要性に関する視点と進捗の見込みの視点から、本計画の事業継続は妥当と判断してよいか。

【各委員】

異議無し。

以上